

エリア

AREA

2007. 8. 15

No. 44

平成 19 年度 国土交通省地域振興アドバイザー派遣・始まる

平成 19 年度のアドバイザー派遣が始まりました。今年度から、アドバイザー派遣のスケジュールが変更となりましたが、7 月 2 日にオリエンテーションと事前打ち合わせ会も終了し、順調に第 1 回派遣がスタートしております。今年度は 17 地域への派遣です（うち 4 地域は試験派遣）。

このニューズレター「エリア」は、派遣地域とアドバイザーを繋ぐものとして、毎年 3 回発行しております。第 1 回目は、派遣受入れ地域のご担当の方々に、「①派遣地域の様子、②派遣テーマ、③オリエンテーション時のアドバイザーとの打ち合わせ内容、④アドバイザーに期待すること」について、ご執筆いただきました。

秋田県／秋田市

1. 派遣アドバイザー

- 金子 和夫（株）日本総合研究所
研究事業本部上席主任研究員）
長沼 修二（総合ユニコム株式会社
企画営業第二部常務取締役）
野口 秀行（ノースアジア大学客員教授）

2. 地域の様子

秋田市の中心部を南北に貫く旭川の右岸に位置し、JR 秋田駅から徒歩 10 分という中心部に位置する川反（かわばた）地区は、東北地方有数の由緒ある飲食店街として、秋田市民のみならず全国から訪れる人々にも親しまれてきた。しかし、近年、飲食ビルの林立などにより、徐々に昔日の風情や往時の賑わいがなくなり、一体的な地区としての特色が消失しつつあることから、魅力の醸成や効果的な PR など、賑わいを取り戻すための組織的かつ持続的な取り組みが必要となっている。

市では、平成 3 年に川反地区約 9ha を、公園都市秋田市をつくる条例に規定する「都市景観促進地区（現：都市景観地区）」に指定し、それ以降、地元と協働で景観形成の観点から地区のイメージアップに取り組んできた。

また、地元の川反・外町（とまち）振興会が、イベントの開催やマップの作成などにより地区の振興と PR に取り組んできたものの、残念ながらあまり効果が上がっていない。

3. 派遣テーマ

「みんなで考える、川反の賑わいづくり」

市では、昨年度、川反地区の振興に向けて市民アンケートを実施した。その結果や地区の基礎データについて分析を行うとともに、全国的に知名度の高い他地区飲食店街等における効果的な観光戦略も参考にしながら、川反の振興に取り組んでいきたい。

また、川反・外町振興会においても、今年の秋田国体を契機に「秋田わか杉国体応援サイト」（<http://www.akita-kawabata.jp/>）を開設するなど、賑わいを取り戻すため意欲的な取り組みを行っており、ともに川反の活性化に取り組んでいきたいと考えている。

4. アドバイザーとの打ち合わせ

当日は、川反・外町振興会の概要とイベントなどの取り組み内容、上記アンケート結果、秋田市商業振興ビジョン、飲食店事業所数等の資料を用い、川反の現状について説明した。

一方、アドバイザーからは、新たな対象者（顧客）の開発の必要性や振興にあたっての地域資源の発掘および地域ブランドの創作に向けた取り組みの検討、多様な情報発信のあり方、地元の合意形成や担い手育成の重要性等についてアドバイスをいただいた。また、取り組みのヒントとなる他都市の事例等についても紹介があった。

5. アドバイザーに期待すること

アドバイザーには、他地区飲食店街の具体的成功事例を紹介していただくとともに、観光拠点として、また秋田市民にも親しまれる飲食店街として、川反の賑わい創出に効果的な振興策の策定および地元の合意形成のあり方について、アドバイスをいただきたいと考えている。

（市勢活性化推進本部主事 鈴木 大）

群馬県／上野村

1. 派遣アドバイザー

- 藤原 洋（株）シース総合政策研究所代表取締役所長）
三田 育雄（長野大学環境ツーリズム学部教授）
守友 裕一（宇都宮大学農学部教授）

2. 地域の様子

上野村は、群馬県の最南西部にあり、西を長野県、南

は埼玉県に接している。その境界は秩父、荒船、御荷鉾連山等のいずれも急峻な1,000～2,000m近い山々が連なり、その支脈が複雑に入りこんで、村全域が険しい山岳地帯となっており、平坦地は極めて少ない。山々は、原生林をはじめとして深い森林に覆われ、森林面積は村の総面積181.86km²の94%を占めているが、広葉樹が多く四季のうつろいは鮮やかで、たいへんに美しい。

村の中央には、西から東に向かって神流川が貫流して溪谷をつくり、その本支流の河岸段丘を利用して、標高400～800mの位置に小集落が散在している。

本村は、東京から100km前後という立地条件にあって、雄大な山岳美と親しみやすい溪流という自然環境を有しながら、道路交通網の整備が遅れていたため、都市住民の入り込みは少なく、大手レジャー資本の進出もなかった。

また、上信越自動車道や平成16年3月の湯の沢トンネル開通に伴いアクセス道の整備を行うことにより、藤岡JCから下仁田ICへの奥多野地域観光ルート開発による入り込み客の増加が期待されている。

3. 派遣テーマ

「第3セクター株式会社上野振興公社の充実」

当村は、平成10年に第3セクター株式会社上野振興公社を企業的センスの導入や株式会社のメリット等導入のために立ち上げた。当時より現在に至るまで村の観光施設や宿泊施設の運営を行ってきた。山村地域である当村は公共事業の減少等の理由によりリストラ等が予想され、株式会社上野振興公社の業務拡張や経営状況の安定が今後望まれるところである。また、新たな業務も実施していきたいため、組織の再構築や人材育成を積極的に行っていく必要がある。

4. アドバイザーとの打合わせ

まずは、経営改善なのか、業務改善なのかでアドバイスを聞く人が異なるので、これをしっかり整理するようにとアドバイスを受けた。経営改善をお願いしたいと申し上げました。また、村内への入り込み客がどのような経済効果を出しているか算定したことがありますかと問われ、当村はそのようなことを実施したことがないと答えた。将来を見据えるためにも一度つかんでおいた方が良くと指導を受けました。

人材や商品やサービスの質を向上させていくようにした方が良く、アドバイザーの派遣を受けた後の受け皿や計画をどのように実行していくかが大事だとのアドバイスもいただきました。

5. アドバイザーに期待すること

アドバイザーの先生方は、多くの会社経営や地域振興等の経験や専門的知識をお持ちであると思いますので、第3セクターの経営等に関するノウハウ等をアドバイスいただきたいと思います。そして何とか株式会社上野振興公社の充実をしっかり実行していきたいと思います。

(企画財政課 土屋 雅彦)

神奈川県／座間市

1. 派遣アドバイザー

浦野 秀一 (有)あしコミュニティ研究所代表取締役)
二瓶 長記 (株)タップクリエート代表取締役会長)
羽田 耕治 (横浜商科大学商学部教授)

2. 地域の様子

座間市は、昭和46年11月に神奈川県下17番目の市として誕生して、平成13年に30周年を迎えました。本市は、東京から40km圏にあり、昭和40年代の高度成長期に工場進出や人口集中により急速に都市化が進んだ街です。東京、横浜からの鉄道、道路など交通の便もよく、現在も地価や住宅、産業、生活文化など全般にわたって首都圏としての影響を強く受けています。

地形としては、東部がさがみ野台地、中央部が座間丘陵、西部が相模川沖積低地と大きく分かれています。

さらに、中央を目久尻川、西端を相模川が流れており、このため起伏に富み、坂や段丘が多く、地域ごとに特色ある街並みが広がっています。

本市は、かつての農村から急激に農業、商業、工業と住宅が調和した都市へと発展しました。しかし、最近では農業従事者の減少、近隣市における商業核の形成の影響により、農業と商業の比重が低下すると共に、製造業の空洞化等により、住宅都市としての傾向も見られます。

そして、急激に都市化が進んだことなどにより、都市としてのイメージがまだ不鮮明です。市内には、情報関連企業や自動車関連企業など最先端技術を持った産業や、伝統行事など活力ある風景、斜面の緑地や湧水群、坂道に沿った屋並みの美しさなど様々な表情があるため、本市の個性をアピールする素材は随所に見られます。

3. 派遣テーマ

「観光協会の組織化と事業化のためのあり方」

観光行政は、国が「観光立国ニッポン」の宣言を行いその法整備を進めており、神奈川県でも産業活性化指針の中で「かながわツーリズム」を提唱し、県内の観光振興に力を入れています。

これを受けて、神奈川県県央地域県政総合センターが中心となり、本市を含む関係市町とこれの具現策を検討しています。

このように、観光に対する国県の諸施策が整いつつある状況の中、本市においても観光協会を設立することが相応しく、市民のための組織づくりと市民本位の事業化を目指して、専門家のご指導を仰ぐものです。

4. アドバイザーとの打合わせ

座間市の観光行政に係る取り組み状況を主に説明いたしました。

その概要は、平成17年度と18年度の2年間、座間市産業活性化ワーキングを概ね月1回のペースで開催して、その概要をまとめたものを発表したことと、市の特産品についても説明を加えました。

今後は、これらをベースとして観光事業の活性化策を具現化していくため、平成19年度後期に観光協会の立上げを計画していることを説明しました。

上記の取り組みに係る住民等との話し合いや情報交換の状況も報告しました。

その内容について、ワーキングのメンバーは学識経験者や大学教授、青年会議所さらには市民の方に参画してもらい、体験談等からのアドバイスや意見交換、情報の提供を行いました。

本年2月には、県主体で市が共催した「相模七福神めぐりモニターツアー」を実施しましたが、市外や県外からの応募者が多く抽選までした経過がありました。

5. アドバイザーに期待すること

- ①国内で特徴のある観光協会の事例紹介
- ②協会設立準備会の組織体制と進め方
- ③観光協会の役割とあるべき姿

以上の項目について特にアドバイスをしてほしいと考えております。

(環境経済部商工観光課 鈴木 博)

新潟県／十日町市

1. 派遣アドバイザー

安藤 周治 (中国・地域づくり交流会副会長)
大滝 聡 (南オム・クリエイション取締役)
奥村 玄 (株GENプランニング代表取締役)

2. 地域の様子

当市のみならず、日本の農業、農村は今、危機的な状況にあります。「深刻な担い手不足と高齢化」「進む農地の荒廃」をはじめ、魚沼コシヒカリというブランドを持つことで起こる「米に特化した生産構造」がその主たる課題です。これらは、農業者個人だけの問題にとどまらず、地域の農業、さらには地域全体の問題となっています。中山間地域である当市では、山間部を中心に農業を基盤として集落を形成してきたため、農業の衰退はそこに暮らす方々の農業離れ、そして集落離れへとつながり、集落そのものの存続危機をもたらしているからです。当市では、これらの課題、問題点を解決していくための施策として、「各々の集落においてそこに暮らす方々が、自分の集落がいまどのような状況であり、どのような課題、問題点を持ち、どうしたらそれを解決できるかを集落みんなの合意で考え実行する場」がまず必要と考えました。そこで今年度、「集落での『寄り合い』ワークショップ」事業をスタートさせました。この事業は、「農業関係機関がワンフロアでサービス提供できる体制づくりを」と昨年4月にスタートさせた十日町市農業元気センターを中心に結成したワークショップチームが主体となって行い、市内5集落での活動を始めております。

3. 派遣テーマ

「モデル地区集落での老若男女の合意形成づくり」

当市では、「集落での『寄り合い』ワークショップ」にて、集落が向かうべき方向性を集落民みんなで話し合い決めていく環境づくり、集落の方々自らができることから実践していく意識づけと誇りの回復、そして地域リーダー発掘・育成の3つのテーマを掲げています。取り組み初年度である今年、その取り組み方やその成果をより高めるために、アドバイザーの派遣を希望しました。既存の集落が5年後、10年後にも活性化し、存続していくために、地道ではありますが、この「集落での『寄り合い』ワークショップ」事業を推進していきます。

4. アドバイザーとの打合わせ

「何故いま、集落にとってワークショップが必要なのか」「何故いま、行政がワークショップに取り組まなくてはならないのか」について熱く語っていただき、参加者に共通の認識を持ってもらうことから始めることになりました。アドバイザーから「集落の方々とは膝を交えて、夜なべでとことん話し合いたい」との意気込みもいただいたので、そんなことも計画できればと思います。

5. アドバイザーに期待すること

集落が集落として、5年後、10年後さらに活性化、存続していくためには、そこに暮らす人たちの集落への「思い」、そして「やる気」と「本気」の醸成が必要不可欠だと思います。集落には集落の数だけの顔があり、一つとして同じものはありませんが、アドバイザーのみなさんの知識とご経験で、それぞれの集落にあった取り組みを導き出していただき、且つ各々が実践していける基盤を築いていただければと思います。

(農林課農業企画係主査 春日 武)

新潟県／南魚沼市

1. 派遣アドバイザー

臼井 純子 (株富士通総研公共コンサルティング事業部 PPP推進室室長)
前田 博 (京都造形芸術大学芸術学部教授)
麦屋 弥生 (フリープランナー)

2. 地域の様子

南魚沼市は、新潟県南部の群馬県境の魚沼盆地に位置し、豪雪地帯にあって、四季折々の彩り豊かな自然景観と自然環境に恵まれています。関越自動車道や上越新幹線などの太平洋側と日本海側を結ぶ交通の大動脈が集中し、新潟県の南の玄関口として交通及び物流の中継地としての役割を果たしています。

大量の雪は豊かな清流を育み、盆地地形の気象条件の下、ブランド米「魚沼産コシヒカリ」の中でも特A産地として最高の評価を受けています。また、「雪さらし」の工程のある重要無形文化財「越後上布」や伝統的工芸品「塩沢紬」、「本塩沢」などの織物産地でもあります。

観光産業が基幹産業となっており、豊かな自然を活用して冬季スキー観光のほか各種スポーツ、屋外レクリエー

ション、グリーンツーリズム、温泉など一年を通じて多彩な交流を推進しています。

3. 派遣テーマ

「高速道路を活かした観光振興事業の体制づくり(ETC多目的利用、ハイウェイオアシス等)」

関越高速道の南魚沼地域には、既存の「越後湯沢」「塩沢石打」「六日町」のICに加え、「大和」のスマートICの設置が決定しており、上越新幹線の越後湯沢及び浦佐の2駅と合わせて、首都圏からのアクセスの基点が整備されることとなります。

本事業により、県内最初のSAである塩沢石打SAを県内交流の拠点と位置づけ、県全域の観光情報を提供できるハイウェイオアシスとして機能整備を進めたい。

また、地域を訪れるお客様がスピーディーに“ストレス”を感じることなく、地域資源にふれあえるように“おもてなし”の体制づくりとETC多目的利用に対応した地域情報提供機能の整備を進めたい。

4. アドバイザーとの打合わせ

限られた派遣回数の中で、より効率的に進められるよう、次の点についてテーマの絞込みをアドバイスいただきました。

- ①隣接市町村も含めた観光振興ビジョンの策定と行動計画の確立
- ②施設中心型から体験中心型へ観光交流テーマのシフト
- ③情報発信機能の充実
- ④持続的活動を支える体制づくり

5. アドバイザーに期待すること

2009年(平成21年)には、NHK大河ドラマに決定した「天地人」(火坂雅志著、NHK出版)の主人公「直江兼統」縁の地として、また、総合国体の開催地として、地域資源を全国に情報発信する機会に恵まれました。

この「09対応」として、地域内での組織やネットワークづくりに加え、具体的な事業化についても、専門的なアドバイスがいただけるものと期待しております。

(産業振興部商工観光課商工振興係 清水 明)

石川県／加賀市

1. 派遣アドバイザー

小河原孝生 (株)生態計画研究所代表取締役所長)
金井 萬造 (株)地域計画建築研究所代表取締役)
橋立 達夫 (作新学院大学総合政策学部教授)

2. 地域の様子

石川県の南西に位置する加賀市は、大日山に源を発する大聖寺川と動橋川の流域に広がる面積306km²、人口7万6千人の都市であり、福井県と接する海岸線は越前加賀海岸国定公園に指定されています。その中にある橋立港には、甘エビやズワイガニなど四季折々の日本海の幸が水揚げされています。港周辺は、江戸中期から北前船主を輩出し、その屋敷が連なる町並みは、伝統的建造物群保

存地区にも指定されています。近くには、ラムサール条約登録湿地の片野鴨池があり、冬には多くの渡り鳥が飛来します。周辺のなだらかな丘陵では、梨やブドウなどの果樹栽培が行われ、関西方面にも出荷されています。しかし、これら多くの地域資源を有する橋立地区ですが、地域の宝が、まち全体の活性化と十分に結びついていないという側面があります。

一方、市内には、北陸を代表する山中、山代、片山津の3つの温泉があり、年間187万人の観光客(ピーク時391万人：S61)が宿泊していますが、旅行形態の変化(個人、グループ旅行の増加)に対応し、リピーターを確保するため、温泉街の魅力づくりに加えて周辺の地域資源の発掘と活用が求められています。

3. 派遣テーマ

「橋立地域のまちづくり計画支援(資源見直しとそれを活かした活性化)」

霊峰白山を眺望し、日本海を見下す「橋立丘陵地」を乱開発から守り、自然園として整備する計画が進行しています。この丘陵地整備を核として、橋立地区全体が発展するために、何が必要なのか。多くの地域資源を有しながら、本当に地域のために活用されているのか。住民の手作りによるプランづくりを通して、まちの活性化を目指します。

4. アドバイザーとの打合わせ

地域の実情について、図面やパンフレットを持参し、歴史的背景や住民意識の現状など、一切の事情を説明させていただきました。これらを踏まえながらアドバイスの目的を明確にし、プランづくりの具体的なスケジュールや参加者の人選についてアドバイスをいただきました。

5. アドバイザーに期待すること

アドバイザーと膝をつき合わせて、ワークショップを中心に、地域の未来をみんなで考えることで、住民に求められるもの、行政に求められるもの、事業者求められるものを探り、明らかにできればよいと思います。特に、農山漁村の文化的景観や食文化、美しい自然の再生と活用に関して、そこに生活する人の価値観の再構築が重要になってくるものと思われます。その上で、住民の意欲を引き出し、ありがたい姿に向かって第1歩を踏み出せるよう支えていただきたいと思います。

(政策課 宮地 徹)

長野県／大町市

1. 派遣アドバイザー

＜試験派遣＞
鈴木 輝隆 (江戸川大学社会学部教授)

2. 地域の様子

大町市八坂地区は平成18年1月1日に1市2村(大町市・八坂村・美麻村)が合併により誕生した大町市八坂地区です。雄大な北アルプスの展望、さわやかな自然の香りある八

坂地区は信濃大町駅から車で15分、北アルプス東山麓にあり、標高650m、面積33.94km²。「八坂」その名のとおり坂が多く起伏に富んだ地形です。植物の種類も豊富で、四季の変化が美しい自然豊かな郷です。

子供たちにとって八坂は自然の宝庫であり、山村留学制度もこの地から全国に広がり32年の歳月と延べ851人の子供たちがこの地から旅立っています。

また、山間部の情報網整備として平成17年度に八坂地区情報基盤整備事業を導入し、テレビの難視聴地域の解消と2011年の地上デジタル波放送対応施策および、光ケーブル網によるCATV整備、インターネットの高速通信網整備、土砂災害情報相互通報システムの導入など、住民生活の安全や安心を守るための新たなシステムの整備が完成しました。

しかし、人口の減少に歯止めが掛からず、近年は過疎化、高齢化の進行により集落機能が弱体化しつつあるとともに、10年後においては限界集落の危機も考えられます。

若者の流出による人口の減少化など様々な問題テーマが蓄積しています。

3. 派遣テーマ

「住民と行政協働による地域づくりの具体的な方策、住民自治活動の推進」

合併を機に、自治会、公民館組織など見直し「八坂地域づくり協議会」を立ち上げました。旧地域にあった様々な団体をひとつの大きな組織で運営し、地域住民からの要望、陳情などをまとめ行政と共に合併後の地域づくりを考えてまいりました。

しかしながら、新組織(合併後)になって、役員の会議出席回数も増え、自治振興会長への負担が増えていることで、地区住民に伝えていきたい情報がしっかり伝わらないなどの苦情、相談が増えてまいりました。

そこで、19年度からは行政広報誌から地域づくり協議会広報誌を発行し(第1回7月)、当会の会議開催内容及び自治会活動の紹介をしておりますが、どうしても行政指導型になり、住民自らやる気を出す為にはどうしたらよいか。

ついては、組織運営の見直しと、将来この地をどのような目標、課題をもって地域づくりを考え子供たちに何を伝え残していったらよいのかを検討していきます。

4. アドバイザーとの打合わせ

八坂地域づくり協議会委員の15名、団体調整会議16名とアドバイザー派遣で地域住民とのふれあいを大切に地区内現地視察、懇談会を行い、今抱えている課題、目標について助言、指導をいただき、10月下旬に2泊3日の予定で実施する計画です。

5. アドバイザーに期待すること

専門の見地からのアドバイスをいただき、地域づくり活動組織と地域の活性化、逆に山間部の過疎地には何が必要なのか、このような地区の将来はどうなっていくのでしょうか、アドバイザーからのご指導を期待します。

(八坂支所総務課 中島 喜一)

岐阜県／高山市

1. 派遣アドバイザー

菅原由美子 (菅原由美子観光計画研究所主宰)

本田 節 (有)ひまわり亭代表取締役)

宮口 侗迪 (早稲田大学教育学部教授)

2. 地域の様子

高山市は岐阜県の北部に位置する人口約9万7千人の都市で、古い町並み、春と秋に催される高山祭や、奥飛騨温泉郷など豊富な観光資源を有し、年間約4百万人の観光客が訪れる観光都市です。

平成17年2月1日に周辺の2町7村と合併し、市域は合併前の15倍以上の約2,177km²という東京都に匹敵する日本一広大な面積を有する都市となりました。

現在は、新高山市となって約2年半が経過しようとしていますが、合併前の町村の特徴を活かしながら、どのように一体感のあるまちづくりを行うかが今後の大きな課題となっています。

今回のアドバイザー派遣事業の対象地域は、高山市でも南部に位置する、久々野地域となります。

当地域は、合併以前から、内陸型の気候を活かした果実(リンゴ・桃)やトマト、ハウレンソウなどの高冷地野菜を中心とする農業が基幹産業で、果樹オーナー制度など都市・農山村交流に力を入れています。

3. 派遣テーマ

「久々野地域の地場産業品のブランド化と広域交流」

久々野地域は「桃源郷の里」として豊かな緑を活用したまちづくりを進め、特にリンゴや桃といった果実の生産が盛んであることに加え、地域住民が中心となって果実を利用した加工品の生産と販売を行っています。

今後は、地域振興を一層推進するにあたり、果実に象徴される地域の強みをさらに伸ばすとともに、周辺の地域の資源を相互に活かすなど、住民が誇りを持てるような地域振興を目指しています。

それを今後進める上で、その中心となる場所(施設)や人材といった核となる存在の確保は必要不可欠で、その選定や育成が大きな課題となっています。

4. アドバイザーとの打合わせ

果実及び加工品を一部製造も含め販売している道の駅を拠点とした方策を見い出すとともに、キーとなる人材の育成が肝要であるとのこと意見をいただきました。

アドバイザーの皆様には当地には8月下旬にお越しいただき、周辺地域を含めた地域の実情の把握と、様々な業種にまたがる住民との意見交換会を開催し、先ず、久々野地域について知っていただくこととしました。

5. アドバイザーに期待すること

地域住民との意見交換をする中で、これまでのそれぞれの実績に基づく経験から、地域振興の核となりえる要素を見い出し、ひいては住民自らが実践できるような

方向に導いていけるようアドバイスをしていただけたらと考えています。

(久々野支所地域振興課 南元 伸一)

滋賀県／米原市

1. 派遣アドバイザー

小俣 寛 (はまなす財団事業部主任研究員)
望月 真一 (株)アトリエU.D.I 都市設計研究所
代表取締役)

2. 地域の様子

米原市は、滋賀県の東北部地域に位置し、平成17年2月に旧山東町、旧伊吹町、旧米原町の3町が合併し、さらに、同年10月に旧近江町が加わって誕生した人口4万2千人、総面積223.1km²の市です。

日本百名山の一つ「伊吹山」を東に擁し、総面積の約7割を占める森林に蓄えられた水は、清流天野川や姉川となって地域を流れ、日本一の広さを誇る母なるみずうみ「琵琶湖」に注いでいます。

この伊吹山から琵琶湖へと注ぐ水系は、貴重な動植物の生息地となり、当地域にとってかけがえのない自然環境をもたらしています。

伊吹山は、草花の種類が豊富で我が国でも有数の薬草の宝庫として知られているほか、天野川の源氏ボタル(昭和27年に国の特別天然記念物に指定)、姉川などの清流と鮎、三島池のマガモ、醒井のハリヨと梅花藻、オオムラサキや里山など、豊かな自然の恵みにあふれた地域として傑出しています。

また当地域は、東海道新幹線、東海道本線、北陸本線、近江鉄道の鉄道網ならびに名神高速道路、北陸自動車道的高速道路網があり、京阪神、中京圏、北陸圏を結ぶ交通の結節点であることも大きな特徴です。

さらに、古くから交通の要衝であったことから、街道を行き交う人々とともに、数々の歴史の舞台となり、伊吹山と醒井の居醒の水を舞台としたヤマトタケル伝説をはじめ、古代豪族の息長氏、バサラ大名として有名な京極道宣、戦国時代を代表する秀吉・三成の足跡、また中山道の柏原宿、醒井宿、番場宿の街並みなど、数多くの史跡・歴史文化が根付いた地域でもあります。

これらの特性を活かし、「自然きらめき ひと・まち と きめく 交流のまち」の実現に向けた取り組みを進めています。

3. 派遣テーマ

「地域資源を活用した経済効果を見込める観光施策の展開」

合併後新市での一体的な観光振興施策が確立されておらず、また地域の南北を彦根市・長浜市といった大々的に観光施策を展開している自治体に囲まれており、さらに市内に宿泊施設・商店街等を有していないことから経済効果を含めた観光振興施策が確立されていない状況にあります。

当市は、豊かな自然・歴史文化を有しており、それら資源や地域の特性を活用した経済効果の見込める観光施策を見出したい。

4. アドバイザーとの打合わせ

地域観光資源等地域の状況を把握するため現地を視察し、あわせて受け入れ組織としての観光協会等との意見交換を行い、今後の進め方等を検討していく。

5. アドバイザーに期待すること

地域振興等今までに培われてこられたノウハウや専門的見地から、魅力ある米原市の観光振興・地域振興施策を展開するためのアドバイスをいただきたい。

(商工観光課 梶田 悟)

兵庫県／豊岡市

1. 派遣アドバイザー

井原 満明 (株)地域計画研究所代表)
内田 文雄 (山口大学工学部教授)
徳野 貞雄 (熊本大学文学部教授)

2. 地域の様子

豊岡市は、平成17年4月1日、兵庫県の北東部に位置する1市5町(豊岡市、城崎町、竹野町、日高町、出石町、但東町)が合併したまちです。人口89,200人、面積698km²、北は日本海、東は京都府に接し、中央部には母なる円山川が悠々と流れています。

平成17年9月には、国指定の特別天然記念物・コウノトリが放鳥され、人里で野生復帰を目指す世界的にも例がない壮大な取り組みが始まりました。

市内30地区のひとつである資母地域は人口2,143人、面積55km²、伝統ある絹織物の産地として「但馬ちりめん」を産出していますが、繊維の構造不況のなか、転廃業が続出し、織機は最盛期(昭和51年)から激減し、過疎化・少子高齢化が進行しています。

3. 派遣テーマ

「但東北部温泉を契機とした但東資母地域活性化方策」

資母地域は京都府に隣接した農山村地域であり、平成17年国勢調査では対12年比で7.7%減少、人口流出や高齢化などにより集落機能が衰え、その存在さえも危ぶまれる限界集落が生まれています。

このため、地域活性化施策のひとつとして温泉施設の建設を市が進め、平成20年8月の開設を目指しています。併せて施設完成後の管理運営を担う地元住民主体の組織づくりに取り組んでいます。

その他資母地域はグリーンツーリズム特区に該当し、農家民宿(3戸)や「どぶろく」の製造販売、地元産材を使用した体験施設「そばの郷」のほか、10日間で7万人が訪れる「チューリップまつり」を地元住民が主体的に実施しています。

地域課題を的確にとらえ、この地域が発展するために

人・物・活動等の地域資源やあらゆる事柄をいかに活用するかが求められています。

4. アドバイザーとの打合わせ

地域の温泉施設として住民がどのように関わるかが重要な課題であります。そのために、「本当に地域に必要なことは何か」を十分理解する必要がある、とアドバイスをいただきました。

5. アドバイザーに期待すること

アドバイザー受入組織である「資母地区振興対策協議会」には資母地区活性化委員会が設置され、住民アンケートや地域内に存在する自慢できる人・風景・イベントなどの調査を行い、住民との情報交換や広報活動に取り組んでいます。

アドバイザーの方々には住民が温泉を契機に「本当に資母に住んで良かった」と感じられるアクションプランのアドバイスを期待しています。

(但東総合支所 山下 文生)

兵庫県／加西市

1. 派遣アドバイザー

<試験派遣>

伊藤 光造 (株)地域まちづくり研究所代表取締役)

2. 地域の様子

加西市北条地区は中心市街地の中にあるまちなか居住の空間です。高齢者も多く住んでいます。ちょうど来年には隣接する三洋電機工場跡地にイオンの大型商業施設が進出する予定になっています。既存の商店街への影響が懸念されますが、北条地区としてはこれを賑わいづくりのための契機として捉えています。

かつて、加西市の顔であった北条の街が、再度賑わいを取り戻し、また、北条の街にとって相応しい賑わいの空間となるために、今後どのように施策を進めるべきかを今回のアドバイザー事業を通して考えていきます。

3. 派遣テーマ

「地区活動の活性化、他地域への波及、大規模商業施設の立地への対応」

今回のアドバイザー受入組織は北条地区まちづくり協議会という団体です。かつて、西国の宿場町として栄えた北条地区、その地域の防災や街並保全、観光PRなどを行うまちづくり団体です。今後のまちづくり活動に継続性と広がりを持たせていくためのアドバイスをお願いしております。

4. アドバイザーとの打合わせ

最初に、三洋電機跡地の開発について話をしました。都市計画マスタープランの改訂、それを支えるための交通体系の見直しなど、手順を踏んで計画を進め、住民に説明の機会を十分に与えていくことが必要であるとご指

摘いただきました。

また、受入団体である北条地区まちづくり協議会については、規約や事業計画、協議会を構成するメンバー、他の団体との連携の程度、例えば、防犯や保健衛生活動、民生活動、子育て支援など自治組織に密着する事業との関連性など、住民のくらしの側面を支える活動への展開、可能性などについて協議を行いました。

5. アドバイザーに期待すること

協議会の活動をどうするのか、地区をどのようにしていくのか、協議会メンバーの意見を聞いていただき、その中で今後の目玉や展開の可能性についてアドバイスをいただきたいと思います。

他にないものを新たに作り出すということだけでなく、今ここにあるもの、ここにしかないものを大切な資源として見つめ直し、それを活用する、そのようなまちづくり活動がうまく広がっていくには、どのような手法やアイデアに基づいて取り組めばよいのか、ご教示いただきたいと考えます。

(経営戦略室 伊藤 勝)

徳島県／三好市

1. 派遣アドバイザー

大川 信行 (東日本国際大学経済情報学部教授)

溝尾 良隆 (城西国際大学観光学部教授)

南 賢二 (株)ラック計画研究所代表取締役)

2. 地域の様子

三好市は、平成18年3月1日に徳島県西部6町村(三野町、井川町、池田町、山城町、西祖谷山村、東祖谷山村)が合併し誕生しました。当市は、面積が721.61km²、人口33,685人(H19.6.1現在)で、徳島県の西部に位置し、北は香川県、南は高知県、西は愛媛県に隣接し四国のほぼ中央に位置します。また、古くから交通の要衝として、県西部域での経済、文化、観光の拠点として発展してきました。

三好市には、大歩危溪谷や黒沢湿原、紅葉の名所「竜ヶ岳」、西日本第二の高峰「剣山」といった豊かな自然や、四国霊場第66番札所「雲辺寺」、平家の落人伝説の残る「祖谷のかずら橋」など、歴史的文化遺産が豊富にあります。

また、阿波踊りや平家まつり、源平雪合戦などのイベント、南国のスキー場「井川スキー場腕山」や石の博物館ラピス大歩危、紅葉温泉などの施設もたくさんあります。

三好市では、近年の高速交通網の整備に相まって、自然美豊かな資源をもとに「自然が生き活き、人が輝く交流の郷」をキャッチフレーズに、交流と連携の拠点を目指しています。

3. 派遣テーマ

「三好市の観光方針と観光関連第3セクターの経営改善」

三好市では、「祖谷のかずら橋」や「大歩危・小歩危溪

谷」といった、自然や歴史文化がもたらす観光資源が豊富にあり、それを活かして観光振興を行っています。

また、市内観光地へ訪れるお客様はかなりの人数を占めますが、近年の高速道路網の整備により滞在型から通過型の観光に変わりつつあります。このような現状で、現在第3セクターで管理運営する温泉宿の利用が伸びていません。

このような中、第3セクターも経費の節減等に努めていますが、赤字幅が減少しない状態で、今後の経営方針や具体的な戦略等が課題となっています。

4. アドバイザーとの打合わせ

三好市の概要や観光関連の第3セクターの経営状況及び、管理運営している施設の概要について、資料を用いて説明をしました。アドバイザーの先生からは、累積赤字の続く第3セクターについて、市として最終的に統合・廃止を考えているか、それとも部分的な改善のみを求めているか、意向を確認しておきたい、と言われました。市としては、旧町村ごとにある第3セクターは、若者の雇用等地域の活力に大きく係わってくるが、将来的に今以上に赤字が増えるようであれば統合・廃止もやむをえないと思います。

今後、アドバイザーの先生方に現地を訪れていただき、専門的な方向から第3セクターの分析、経営改善のアドバイスをお願いしたいと思っています。

5. アドバイザーに期待すること

三好市には、自然や歴史・文化がもたらす観光資源が豊富にあります。これらの観光資源と温泉宿を活かした地域の活性化と、温泉宿を管理運営する第3セクターの経営改善のための効果的・効率的な事業展開の方法。また、第3セクターの自主的な経営努力が発揮される方法など、専門的なアドバイスを期待しています。

(商工観光課 城野 義明)

愛媛県／宇和島市

1. 派遣アドバイザー

寺川 重俊 (南寺川ムラまち研究所代表取締役)
富田 宏 (株)漁村計画研究所代表取締役所長)
安島 博幸 (立教大学観光学部教授)

2. 地域の様子

宇和島市は、平成17年8月1日に、宇和島市・吉田町・三間町・津島町が合併して誕生しました。市内の中心に位置する宇和島城を基点に、伝統と歴史、そして、海山川を有する豊かな自然に彩られた、人口9万人の小さな城下町です。

年間を通して温暖な気候からか、住人は穏やかで、のんびりしており、外来者に対するお接待の心が変わらず息づいています。

しかし、穏やかなだけではありません。祭りの時には、一変します。

宇和島地域の風物詩として、親しまれている「牛鬼(うしおに)」は、鬼の頭に5メートル以上もの巨体を激しく揺らしながら、町中を練り歩きます。この伝統的な魔よけの風物詩は、夏の祭りや秋の地方祭などに登場し、長く親しまれている奇習です。

また、美しい自然と風土に恵まれた宇和海で育まれる真珠、鯛、ハマチの養殖は、質量とも日本有数のもので、主要な産業となっています。

このような地勢と穏やかな土地柄の中、当市には、今まで住民自らが主体となり、力をあわせて、まちづくりを行うことがありませんでした。そこで、お客様に豊かな歴史や自然、そして伝統芸能「牛鬼」を広く知っていただき、体験していただくための仕組みづくりを行う組織として、うわじま虹色ツーリズム協議会を立ち上げ、多彩な魅力あふれる体験メニューを作ろうとしています。

3. 派遣テーマ

「牛鬼の里のブランド構築とツーリズム事業の展開」

当市は、特色ある旧1市3町が合併した後、市民が一体感をもてるような親しみやすいシンボルとして、加藤清正が朝鮮出兵の際に使用したともされる奇習「牛鬼(うしおに)」を打ち出し、これにちなんだブランド構築とツーリズムメニューの模索を行っています。しかし、愛媛県内では、それなりに認知されているものの、全国的な知名度は低く、これを最初の一步として、特色ある事業を展開していくことを、派遣のテーマといたしました。

4. アドバイザーとの打合わせ

日本の地方が抱える諸問題の多く(人口流出・少子高齢化・第1次産業の衰退・離島・限界集落等)を包括する当市の取り組みに対し、最初から牛鬼のイメージをどう使うかは、なかなか難しいとお話でしたが、豊富な資源や多様な地域特性を使って、ブランド構築やツーリズム展開については、大いに可能性があるとの力強いお言葉をいただきました。

また、住民が自主的に企画立案をしていくことが大事との助言をいただきました。

5. アドバイザーに期待すること

地元の人間ではわからない、又は気がつかない地域資源や魅力と一緒に発見していただき、斬新なアドバイスをいただきたいです。また、長引く景気の停滞等により、元気をなくしている住民に希望と自信を持たせる力となっていいただければと考えています。私たちもアドバイザーの皆さんに少しでも宇和島のことを好きになっていただけるよう頑張りたいと思います。

(産業経済部商工観光課 神應・大塚)

1. 派遣アドバイザー

河部 眞弓（NPO法人結まーるプラス理事長）
 鈴木 勇次（長崎ウエスレヤン大学現代社会学部教授）
 松田 猛司（クラブノアグループ代表）

2. 地域の様子

平成16年10月に旧弓削町、生名村、岩城村、魚島村が離島同士の合併、8つの有人島と17の無人島で構成、人口8,098人（H17国勢調査）、主産業は造船、次いで漁業、農業。造船業は現在好景気の様相を見せているが、継続性は不透明、1次産業の農業、漁業とも価格の低迷、後継者不足に悩む。農業でIターン者の受入支援を行って、2組の有望な農家が刺激を与えている。いずれにしても、人口は加速度的に減少傾向、造船は定住促進にはつながらず、1次産業のIターンを積極的に推進する。

地域振興については、岩城島では、昭和60年から青いレモンの島のキャッチフレーズの元、産業基盤の増強のため特産品開発販売の第3セクター（株）いわぎ物産センターを設立、積極的に商品開発及び販売を展開し現在売上約1億。農家レストラン「でべそおばちゃんのお店」でのレモン懐石。また、Iターン農家のブルーレモンファームを中心に高齢化した農家グループ（サンファーム）も直販体制が整いつつある。

弓削島では、島ツーリズム振興のため、せとうち交流館で体験交流事業、「おいでんさい」での特産品の開発販売、摘み菜を使った自然食の浜風御膳、島巡りクルージング（福山市）の昼食にスローフードの提供もする。

生名島ではむつみグループが味噌やせんべいを焼いて販売、杜仲茶の生産をしている農家、また、車えびの養殖、販売を手がけている。

魚島・高井神島は、漁業の盛んな島で、冬場には「でべら」が有名、少量のため観光客に販売するに至らない。子供達の体験交流キャンプに適する。

昨年度、町のキャッチコピー、ビジュアルの作成、町のイメージ作りにも取り組んでいる。また、総合計画では、町の施策協議に、各住民グループとの対話（百人委員会）を活用している。

3. 派遣テーマ

「地場産品の拡大による島の活性化」

今まで福島県いわき市や東広島市福富町との交流も行ってきたが、今後は、地域の産業振興や各住民グループの活性化のために、大都市圏域で友好都市として交流を積極的に行い、観光や地域産物の市場開発にも役立て町を活性化致したい。そのため、友好都市の関係を築くための手順のアドバイスをお願いしたい。手始めに、地元の現況をアドバイザーに見ていただき、都市に向かって発信できる素材は何か、その生産・加工体制、町の方針等を知っていただいた上でアンテナショップの設立の前提としたい。

4. アドバイザーとの打合わせ

上島町の現状並びに今回のアドバイザー派遣の主旨を説明、売りたいものは、「地域」であり、馬路村が地域性によって商品を特化していった戦法を習い、上島地域のレモンや海苔等売ってゆきたい。町おこしグループの当事者が特産品の販売先及び現状及び課題等を説明。アドバイザーからは、特産品だけでなく観光を含めた地域の体験を売り物としたアンテナショップの紹介。販売量に応じた生産体制のため、町だけでなく、近隣の島からも仕入れる方法もあることなどのアドバイスを受けた。

アドバイザーの第1回の派遣日程 8月22、23、24日（2泊3日）に決定。

5. アドバイザーに期待すること

上島全体の資源として、岩城・弓削・生名の産物、魚島、高井神の自然等、様々な資源を含んでいるので、すべての島を見ていただいた上でアンテナショップに供給する産物並びに情報をもとに、上島町に適したアンテナショップの形態をご指導頂きたい。

（企画情報課 島本 計治）

福岡県／宮若市

1. 派遣アドバイザー

<試験派遣>

渡戸 一郎（明星大学人文学部教授）

2. 地域の様子

宮若市は、旧宮田町と旧若宮町2町が合併し、平成18年2月11日に発足した。市の面積は139.99km²、平成17年の国勢調査で総人口は30,630人となっている。

明治初期までは、宮若市は犬鳴川及びその支流に開けた水田と周囲の山林を資源として形成された農村であった。しかし、明治17年に石炭採掘が開始されて以来、明治、大正、昭和のほぼ1世紀にわたり大規模なエネルギー供給地として発展してきた。しかしながら、昭和30年代からはじまったエネルギー革命の影響を受けて、炭鉱が閉山し、石炭産業の時代も終わりを迎え、その後は、自動車産業やIC産業等の企業立地の実現により、新たな基幹産業の時代へと入っている。また、一方では農業を基幹産業とする純農村地域も現存し、国指定史跡の竹原古墳、脇田温泉、産直販売を行うドリームホープ若宮等を中心とした観光にも力を入れている。

こうした中、本市では、将来像の副題として「市民、企業、行政が協働で創る自立都市を目指して」と定めている。このようなことから行政への市民参加を積極的に取り入れていくことにしている。

その代表的な主体として宮若市まちづくり委員会を設け、多くの市民の意見を行政に反映させていくことにしている。

3. 派遣テーマ

「協働のまちづくりのあり方について」

この市民参加のルールを定めるために職員の地域担当制を含んだ「自治基本条例」の策定に取り組んでいるところであるが、この条例とまちづくり委員会の融合をいかにして行い、職員と市民との更なる協働のまちづくりをどのように進めていくかが大きな課題となってくる。

4. アドバイザーとの打合わせ

打ち合わせにおいては、今回は試験派遣ということで、ひとまず、本市のまちづくり委員会の活動状況をご覧いただき、その中で自治基本条例をいかにして活用していくかをアドバイスいただきたい旨の協議を行った。

5. アドバイザーに期待すること

自治基本条例の策定については、策定に関していえば簡単であるが、それをいかにして運用させていくかが大きな課題であり、策定してそれに満足だと、それこそ絵に描いた餅となってしまう。

また、本市は職員の地域担当制も導入することにしており、まさに市民、職員が一体となった協働のまちづくりを進める上で、その進め方を市民と職員にアドバイス願えたらと思う。

(総務企画部企画財政課まちづくり推進グループ 尾藤 康弘)

長崎県／波佐見町

1. 派遣アドバイザー

＜試験派遣＞

井手 修身 (イデアパートナーズ㈱代表取締役社長)

2. 地域の様子

波佐見町は、基幹産業である窯業が近年の構造的な不況により生産額・販売額ともに激減するなど地域の活力が失われている。このようななか、団塊世代を対象とした田舎暮らし推進事業をはじめ、「来なっせ100万人」をスローガンに、地域資源(やきもの・温泉・農産物・棚田・地酒等)を活用した交流人口の拡大による町の活性化に取り組んでいます。

波佐見温泉は、大正10年頃石炭調査のボーリング中に鉱泉が噴出したことに始まり、昭和初期までは個人による湯治場として経営、高度成長時代に地域開発と住民福祉の向上を目的に、行政をはじめ企業や町民からの出資による「波佐見温泉センター」(現在地)を建設し、周辺の商店街とともに活況を呈していましたが、センター(民間経営)の老朽化に伴い客足も激減し、平成18年6月に40年の幕を閉じました。それに伴い周辺商店街も活力を失っています。

3. 派遣テーマ

「波佐見温泉再生と商店街の景観整備」

「波佐見温泉(美人湯)」は、波佐見町を代表する地域資源の1つであり、交流人口拡大要因と成り得るもので、

波佐見町活性化に大きく貢献してくれるものです。

現在、地主会社も温泉経営に参画し新築再整備の意向があり、周辺温泉商店街と一体となって再生協議中です。

しかし、近隣市町においても近年温泉施設が整備されており、他にない温泉施設並びに周辺商店街の整備には、専門家のアドバイスが必要であり、今回のアドバイザー派遣を要望したものです。

テーマを「波佐見温泉再生と商店街の景観整備」と定め、温泉活用による地域の再生と町の活性化を図りたいと思います。

4. アドバイザーとの打合わせ

波佐見温泉と商店街再生のため次の視点でワークショップを進め、方向性を見出すこととしました。

①波佐見温泉核施設(旧温泉センター)の再整備方針

・波佐見温泉は、泉質(美人湯)は他に負けないいい湯であると認知されているが、周辺市町に温泉施設が整備され、今までの温泉施設の改築でいいものか？再生に繋がるものは何か？

②各施設を取り巻く温泉商店街の景観整備と街づくり

・温泉核施設だけでなく、周辺商店街の景観と街並みはどうあるべきか？

5. アドバイザーに期待すること

波佐見温泉地域は、波佐見町の南地区に位置し、(旧)下波佐見村の中心地域として地域の振興発展に大きく貢献してきました。その間行政としても商店街の活性化と町民の福祉の向上のため、同地域の河川公園整備(堤防ジョギングコース整備等)や、商店街道路(県道)の拡幅工事を進めるとともに、源泉が冷泉で湯量に不安があるため、湯量の豊富な高温の温泉源泉を求めて平成14年度に源泉調査を済ませているところです。

波佐見町の宝である温泉再生については、町民挙げて期待しているところであり、今回のアドバイザーにより温泉をはじめ内在する地域資源を活用した地域活性化の方向性が見出せればと期待するものです。

(商工企画課商工観光係 平野 英延)

鹿児島県／錦江町

1. 派遣アドバイザー

朝田くに子 (ローカル・ジャンクション21代表)

佐川 旭 (㈱佐川旭建築研究所代表取締役)

森 松平 (㈱杉の子代表取締役)

2. 地域の様子

錦江町は、鹿児島県大隅半島の中南部に位置し、総面積163km²で、鹿児島湾に面した海岸地帯と稲尾岳・荒西山等からなる中部高原地帯に大別されます。平成17年3月、田代町と大根占町の2町合併によりできた人口1万人余りの小さな町です。旧大根占町神川地区では村おこし事業の一環として平成15年2月から神川新鮮野菜市を開業しました。売り場面積はわずか4.5m²でしたが、30名

の組合員で100円均一の農産物の販売から始めました。価格が安く新鮮であることから、次第に客数も増え、開店後、数時間で売り切れる状態でした。そこで、会員増強を図り、平成17年には組合員も70名になり、月売上も300万円ほどになりました。また、販売については組合員が交代で行い、自分の出した品物の評価を直接お客から聞くなどして、組合員とお客との交流もできるようになりました。

平成17年3月、町村合併に伴い神川新鮮野菜市を発展的に解消し、町の観光情報の発信と物産館を兼ね備えて「にしきの里」を建設することになりました。新たに「にしきの里出荷者協議会」を設立し、物産館を指定管理者制度に基づき、施設管理もするようになりました。会員数も170名を超え、平成18年4月に開業以来、年間売上が1億3千万円に達しました。

3. 派遣テーマ

「物産館近くに農家レストランを設けるための運営全般」

物産館建設にあたり、当初から食堂の経営も視野に入れていましたが、事業費の高騰や地元飲食業者との調整などの観点から、食堂建設については見送ることになっていました。

物産館開業1年を経過して、会員やお客さんから食堂経営の要望などがあります。地元の高齢者の英知と物産館「にしきの里」の新鮮野菜を利用した、地産地消型の

農家レストランを建設し、運営するために、メニューの検討や、食堂経営のノウハウや食堂の構造・規模などについてアドバイスを受けた。

4. アドバイザーとの打合わせ

事前打ち合わせには、「にしきの里出荷者協議会」の会長と町職員が出席し、2名のアドバイザー佐川氏（建築設計）、朝田氏（食文化研究）と協議を行いました。主な内容は、年間の派遣日程の確認や（第1回目は8月初旬）、「にしきの里」利用者によるアンケート調査の実施など、第1回目の検討資料について、協議を行いました。

5. アドバイザーに期待すること

旧大根占町においては、「大滝の茶屋」や「トロピカルガーデン神川」の食堂を直営で経営したこともありましたが、いずれの施設も経営状況が悪く、「トロピカルガーデン神川」については、平成16年から食堂部門の営業を中止したり、「大滝の茶屋」については、営業期間を周年営業から期間営業（4～10月）に短縮するなどしてきました。

これまでの経緯を踏まえ、食堂経営をするためには、立地条件や収支見込み、メニューについて、慎重に検討することが重要です。本事業を導入することによって専門的な見地からアドバイスをいただき、事業の推進を図りたいと思います。

（企画課未来形成チーム 木場 一昭）

オリエンテーションの様子

去る7月2日（月）、国土交通省10階会議室にて平成19年度地域振興アドバイザー派遣制度のオリエンテーションが開催されました。各都道府県・市町村から合計44名の担当者の皆さんや受入組織の皆さんと、34名のアドバイザーの方々が集まりました。

13：30～

●開会

13：40～

●地域振興アドバイザー派遣制度についての説明
（国土交通省地方整備課）

●個別事項等の説明
（(財)日本地域開発センター）

●質疑応答



会場の様子



質疑応答

事前打ち合わせ会の様子

14 : 30 ~

- 挨拶 国土交通省地方整備課
- アドバイザーと市町村担当者との打合せ



17 : 00 ~

- 閉会

交流会の様子

17 : 30 ~

- 地域振興アドバイザー交流会

(財)日本地域開発センター主催による交流会が開催されました。アドバイザー、地域担当者、アドバイザー受入組織の皆様の間で、地域振興に関する論議を交わしました。



今年度の派遣スケジュール

7月上旬	7月下旬	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
オリエンテーション アドバイザーとの打ち合わせ テーマの確認、日程調整	日程調整 受け入れ準備	第1回派遣		第2回派遣		第3回派遣		

編集・発行

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-11-7 第二文成ビル201
財団法人 日本地域開発センター
TEL. 03 (3501) 6856 FAX. 03 (3501) 6855

〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3
国土交通省都市・地域整備局地方整備課
TEL. 03 (5253) 8404 FAX. 03 (5253) 1588